

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200220		
法人名	社会福祉法人 川岳福祉会		
事業所名	グループホーム しあわせの里		
所在地	熊本県八代市二見本町924-2		
自己評価作成日	令和7年 1月 8日	評価結果市町村受理日	令和7年 4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	令和7年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・年間を通して行事等には、力を入れています。特に夏祭り・敬老会では昼食の時間を家族様と一緒に過ごして頂き、希望される家族様には食事介助などでもして頂いています。食事を通して身体状態を家族様にも理解して頂くためのものです。その時は、家族様の同じ食事を提供しています。 ・入居者様のケアについて、担当制にしており生活用品、オムツ、誕生日会など担当者が責任を持って関わるようにしています。 ・地域の関わりを大切に考え、地域の創業祭、ドンドヤなど積極的に参加しています。 ・入居者様がその人らしく自由に生活が出来るよう、生活の様子や会話の中で要望傾聴したり察したりしながら、出来るだけ支援できるよう職員間で話し合いを重ねて毎日を送っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山あいの田園に立地し、日当たりよく清潔なりビングで、入居者が穏やかな表情でのんびりと過ごされている。玄関や廊下などの共有スペースにはゆとりがあり、行事毎の写真掲示によって明るい雰囲気醸成されている。敷地内の畑で一緒に収穫した野菜を食事に活用するなど日常の楽しみと共に、年間を通した外出行事が計画・実行され、楽しみの提供がなされている事は特筆される。排泄ケアにも力を入れており、全利用者がオムツを使用せず、布パンツもしくはリハビリティパンツでの排泄が可能となっている。ちょっとした声掛けにもプライバシーへの配慮を行うなど、利用者中心のケアが実践されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、職員の目に入る所に掲示されている。管理者も職員も理念の意義を踏まえて、日々の介護の中に浸透出来るような意識したケアが出来るよう努めている。	玄関やリビングなど目につきやすい位置に理念が掲示されており、月に一度の定例会にて職員に共有・確認されている。	日々のケアの中に、具体的な形で理念が活かされるよう、継続した取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される運動会、創業祭、ドンドヤなどに積極的に参加している。12月の施設の餅つきには地域の方が毎年4～5人の方達が手伝いに来られるいる。その後、交流の場を設け交流を深めている。	どんどやへの参加・地域の物産館の祭りや初詣などの行事以外にも、日頃から畑や竹林の整備を家族や地域住民が行うなど、活発な交流がなされている。現在は近隣の保育園との交流を模索している。	現在の取り組みを継続しつつ、保育園との交流を実現させるなど、今後も交流の機会拡大が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流室を利用して地域包括支援センターと協力しながら地域の方の相談や研修などを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様家族、民生委員、地域包括支援センター、市役所から参加されている。事業所の取り組みや行事の内容、ご入居者の日常生活状況など報告している。地域・行政・家族間の意見等を取入れながら事業所の運営に活かしている。	2カ月毎に実施され、議事録に丁寧に記録されている。活動状況や研修、事故に対する報告と、意見聴取の場として活発な意見交流がなされている。運営推進会議で出された意見を基に見直しが実践されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や気になる事など積極的に相談するようにしている。	運営推進会議にて定期的に相談するのみならず、必要時にメールや電話での相談も行い、緊密なやりとりが実施されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月ごとに身体拘束適正化検討委員会と3カ月ごとに施設での身体拘束廃止委員会を開催している。勉強会を重ねる事で職員も身体拘束をしないケアについて理解してきている。	運営推進会議に合わせて身体拘束適正化検討委員会、定例会に合わせて身体拘束廃止委員会が開催され、記録が整備されている。年に2～3回の身体拘束に関する施設内研修が実施されている。	ご入居者離設の経験から、玄関の施錠が実施されているため、日中は開錠した状態での施設運営が可能となる取り組みへの努力が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度の定例会議で身体拘束、虐待について職員が中心となって研修している。お互いに意見を出し合って虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での定例会議の中での勉強会や八代市のグループホーム連絡会の中での勉強会など、学ぶ機会を見つけて勉強している。現在、社会福祉協議会の権利擁護事業を使用されている方がおられるので、職員にも内容を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または改定時に説明を行い、同意と理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、行事の案内や日常生活状態の報告などコミュニケーションに努めている。面会簿なども活用して意見や要望など取り入れやすくしている。又、運営推進会議で意見・要望など聞ける機会を作っている。	意見箱を設置しているが、投函はほぼない。疎遠なご家族もあるが、電話での随時報告や相談を実施し、可能な限り意見を吸い上げるよう努力されている。毎月写真付きで個人の活動報告を書面にて行っている。	毎月の活動報告と一緒に投函用紙も郵送するなど、意見箱への投函が増える工夫や、吸い上げた意見と対応内容をご入居者・ご家族・職員にフィードバックする取り組みが期待される
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議を通して職員の意見や提案など話せる機会の場を設けている。又、個人面談の中で個人の目標や意見、提案、ケアの改善など積極的に話してもらっている。	月に1度の定例会にて職員からの意見を吸い上げており、業務改善や入浴時間など、多彩で活発な意見が得られている。、個別の職員からの要望は面談で聞き出し、職場環境の改善に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の代表者との会議の際、職員の勤務状態や働き振りなど気になった事は、報告・相談している。職場の環境整備は随時、気付いたことは提案しながら働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談の機会を設け、職員には半年ごとの目標を持ってもらっている。職員の介護力を把握し、代表に現状を伝えるようにしている。サービスの質の向上の為に月1回の定例会議で研修を行っている。他に、外部研修の紹介をする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作られた連絡会議が二か月に一回開催されている。会議に参加することで、ネットワークづくりや勉強会など知識や技術の質の向上に役立てている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご本人やご家族と話す時間を作っている。ご本人やご家族と会話することで不安や困っている事や問題点が見えてくる。これからのホームでの生活がより良いものになるよう繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族が困っていること要望など傾聴する事で、不安や困っている点などが見えてくる。今後の関係作りがスムーズに出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なサービスを提供することで、その人に適したサービスやケアを提供できるようにしている。段階的にサービスを提供することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のできる事はして頂き、できない所を支援している。洗濯干しや洗濯たたみ、台拭き、廊下のモップがけなど自分たちの出来る事をしてもらっている。又、役割を持ってもらう事は大切な事であると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも気軽に面会に来られる雰囲気を作っている。また、誕生日や夏祭り、敬老会、その他の行事などのお知らせも定期的に行ない、一緒に参加されている。電話等で随時、生活状況や気になる事は、連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や外出の援助を行なっている。馴染みの方の面会なども出来ている。	友人の面会や馴染みの理髪店に通うなど、馴染みの関係継続がなされている。また、全員が入所前からの主治医(複数の場合も)の元に通院しており、送迎や付き添いの支援が実践されている。	今後も現在の馴染みの関係、馴染みの医療機関受診を継続し、不必要な訪問サービスを利用しないなど、ご入居者の利益に資する取り組みが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆さん、リビングでの生活が中心になっているのでリビングの生活を大切にしている。テーブルの配置やリビングの環境作りに力を入れている。又、職員が入居者様の間を取り持ち孤立されないように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご本人様、ご家族様の必要に応じて機会があれば、相談や支援に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定例会議の中で入居者一人ひとりの思いや希望に近づけるよう話し合いを行っている。困難な方の場合、ご家族の意見を伺いカンファレンスを開催する等、ご本人の希望をご家族に聞き取るにより、ご本人の立場で検討している。	相性のいい職員がご入居者の本音の思いを聴取するなど、日々の生活の中で可能な限り意向を把握できるような関わり方がなされている。月に1度の定例会にて職員個々が把握している入居者の思いや意向が共有されている。	聴取が困難な方に対しては、ご家族より生活歴を聴取するなど、より本人の意向が推測・把握できる取り組みが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴やアセスメントなどをご本人やご家族から出来るだけたくさん聞き取るように工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での日常生活を通して、生活のリズムや生活のパターン、出来る事出来ない事などしっかり把握し、観察するようにしている。それらを定例会議の時に話し合い、決定した事を実施するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前にアセスメントを取り、介護計画書を作成している。入居後の様子観察を行い、新たな課題があれば更新する。ご家族との面会時や電話での話しの内容を介護計画書に反映している。	全職員への情報共有がなされており、ケアマネがケアプランを作成している。プランの遂行が確実なものとなるよう、ケアマネが現場に入り詳細な伝達をOJTで実施し、モニタリングも実施している。	担当者が交代した際にも記録が活用できるよう、統一された介護ソフトの導入や電子化により化学的介護を推進することが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録へ記入している。業務開始前に申し送りを行い、ケース記録、業務日誌、連絡ノートなどを使って職員間で情報を共有している。定例会議でケアの見直しを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間の経過と共に、ご入居者の状態やご家族の状況等に変化が見られる事もある。ご家族ができない所は、臨機応変に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なるべく地産の食材を近くの店で購入している。地元の理髪店の方の出張で髪を切りに来てもらったりしている。地域の方たちとの関わりを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、以前からご本人がかかっておられたかかりつけ医と連携しながら健康管理に努めている。	利用者毎になじみの主治医への通院支援（職員送迎）を月に1回から2回実施している。また、八代市医師会訪問看護（毎週火曜に訪問）との連携により、24時間体制で、主治医への適切な指示受けも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご入居者の様子や気付いた事を施設の看護職員に報告・相談を行っている。又、週1回の訪問看護にも報告・相談を行い適切な受診や看護を受けられるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院の際には、直接病院に行き、ご入居者の状態を見て来るようしている。地域連携室や相談員と連携して密に情報交換を行い、退院時には情報周知をはじめ受け入れ体制を万全に整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する要望書の同意を頂いている。それらをもとに段階的に終末期に関する話し合いを行っている。	重度化や終末期の指針は整備されている。現在看取りは実施しておらず、嚥下状態の悪化など、重度化した方には主治医と訪問看護、ご家族との連携の中で、可能な限り家族や本人の意向を汲んだ対応を実施している。	現在行われている可能な限りの対応を継続しつつ、看取りを実施することができるよう可能性を模索する努力が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の定例会議において、ご入居者の急変や事故に対応できるよう様々なテーマで研修を行っている。座学だけでなく心肺蘇生の実践訓練やAEDの使い方など学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練（消火・通報・避難）を消防署立合いのもと行ったり、運営推進会委員を交えた訓練なども行っている。地域の方と協力して体制を築いている。	自然災害発生時における業務継続計画が整備されている。年に1度の消防訓練を地域の協力のもと実施されている。	施設の立地状況から可能性のある災害に対して、より現実的な想定と対策・対応を考慮する努力が期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を通して尊厳とプライバシーに関する勉強会を行ったり、業務中に指導している。	個人情報保護マニュアルやプライバシー保護指針が整備され、年2回の研修が実施されている。食堂から遠いトイレを優先的に使用したり、声掛け方法を工夫し誘導するなど、日常の些細な事にも注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を大切にしている。職員は、ご入居者の好みや思いなどに関心を持ち、会話などを通して、ご本人の希望や気持ちを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や生活リズム、ご本人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からのプレゼントだったり、以前より思い入れのある服を持っておられ、その日その時に着たい服を選ばれて着ることが多い。外出する時は特におしゃれをして出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事の準備や片付けを一緒に出来ていないが、敷地内にある菜園と一緒に各種野菜を育てており、その収穫時期を話しあったり収穫を楽しんだりしている。	献立は食事摂取量から逆算するなどの工夫を凝らし決定されている。畑から利用者が収穫したものを使用したり、食事時にはTVを消しBGMを流すなど楽しみの時間となる取り組みがなされている。	協働作業する場面を増やしたり、その日のメニューを掲示、行事食の際にはお品書きを添えるなど、より豊かな時間となるような取り組みが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックしている。カロリー計算は出来ないが、栄養バランス、塩分、糖分(カロリーゼロのパルスweet)を使用して薄味の料理に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後は一人一人の口腔内ケアを行っている。又、義歯の管理等も行なっている。多くの方は、週1回の訪問歯科を利用されており訪問歯科医院と連携している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使ってそれぞれの排泄パターンを把握している。定期的(2時間ごと)に声掛け・トイレ誘導を行なうことで排泄の自立に結びついている。日中・夜間を通して2時間毎のトイレ誘導を行なっている。トイレでの排泄に心がけている。	排泄チェックによる声掛けだけではなく、本人の様子や動きから尿便意を汲み取りトイレ誘導を実施している。7割の方がリハビリパンツ、3割が布パンツ。夜間はパターン把握により時間誘導も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心として食事を提供し、定期的にトイレ誘導を行なうことで、自然排便を促している。また、下剤を使用して排便コントロールをしている方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を提供している。ご本人の体調や病状・習慣などを聞き取り、入浴表を作成している。その日の体調に合わせて、その方に応じた柔軟な対応を行っている。	入浴は週3回実施されている。入浴拒否するご入居者も少なく、基本的には計画通り実施されている。	ゆず湯やしょうぶ湯など季節の行事湯を実施するなど、楽しみのある入浴への取り組みが期待される
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は、クーラーなどを使用し室温を保っている。日中は、ご入居者の希望に応じて、休息できるように、リビング内にソファなどを設けている。就寝時は、ご自分のペースで就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人々の薬管理袋を作っており、その袋に薬の名前・内容と効能を記している。それを見ることにより薬の目的等が理解でき、間違えないようにしている。服薬チェック表もあり与薬したらチェックするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の現在の身体状態にあった役割を持って頂いている。生活歴や好み、楽しみを知る事でご本人に合った楽しみを持って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や行事に合わせての外出の計画を立てている。計画書が無い時でも、天候の良い日にはその日のスタッフの体制など可能な場合はいつでも外出ができるように心掛けている。普段行けない場所へはご家族と相談協力して出かけられるように支援している。	温泉センターや紫陽花など、季節毎に外出する行事が実施されている。日常の中でも庭や畑に出て散歩や活動するなど、気軽な外出への取り組みがなされている。	外出が困難なご入居者に対しても、時には本人が行きたい場所への特別な外出支援を実施するなど、可能な限り全ご入居者に外出の機会を増やす努力が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より「預り金」という形でお小遣いを預かっている。その中からその方に必要なものはご家族の了解を得て活用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持の方には利用過剰とにならないように注意しながら支援している。届いたハガキや手紙はご本人へ代読している。返事を出したいと言われる方には担当職員やCMが関り支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中心となるリビングは広い空間で明るくゆったりとした雰囲気。窓が大きいので外の景色を楽しめ、太陽の陽ざしが良く入り日向ぼっこをされる方が多い。自慢の菜園では季節の野菜を育てて皆で収穫して楽しんでいる。	のどかな田園に立地し、リビングはとても日当たりがよく、清潔が保たれており、気持ちよく過ごすことができる空間となっている。また、廊下には行事毎の写真掲示がされており、明るい雰囲気が醸成されている。	季節の草花を活けたり、個人・共同での作成物の掲示を行うなど、より「自分の居場所」となるような空間づくりが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室は個室になっているので、ゆっくり一人になりたい時には自室にて過ごしてもらっている。リビングでの生活が中心になっており、皆さんリビングにいる事が多い。ソファやカラオケなど聞ける設備を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家と同じ、と感じていただきたいので、ご家族の希望や本人の好きな物を持ち込んでもらっている。ご本人にとって居心地の良い居室作りに取り組んでいる。	シーツ交換の頻度は決まっていないが、可能な限り実施するようにされており、最低でも週1回以上は交換している。半数程度のご入居者は、日中も居室で過ごす時間を持っている。	余暇活動での作成物や写真など、個人の掲示物などで飾り付けを行うなど、より自分の部屋と感ずることができると期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯たたみや洗濯干し、掃除等家事の手伝いもしやすい環境になっている。トイレには、表示板や貼紙をして分かりやすくしている。ホーム内はバリアフリーにより安全に移動できるようにしている。		